

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さざんか )

事業所番号	0670101310		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー吉原		
所在地	山形県山形市南館3丁目21番50号		
自己評価作成日	平成30年10月1日	開設年月日	平成15年4月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方達との交流を通し馴染みの関係を築きながら、地域の一員として繋がりを深めるよう努めております。入居者一人ひとりの出来る事の継続を支援し、そのらしさを大切にしながら安心して楽しく暮らせる場であるように、本人の気持ちの理解に努め、本人本位のより良いケアが実践できるように日々取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議では、地域住民や地区ごとの民生委員、オブザーバー等たくさんの委員を招き多方面の知識を活かした意見を頂き、サービスの向上に活かしている。本事業所は、認知症介護の経験豊かな職員が多く、自発的に行動し、利用者の出来ることや思いの把握に努め、「その人らしいあり方」を大切にしている。また、重度化や看取り等困難な事にも積極的かつ前向きに取り組み、「最後までその人らしいあり方」の実現に努力している。協力医療機関との連携や看護職員の配置があり、利用者や家族等の安心に繋がっている。職員と利用者は信頼の絆で結ばれており、家庭的で笑いの絶えない事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 11月 13日	評価結果決定日	平成 30年 11月 28日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利、個性を尊重しながら地域の中で安心、安全な生活が継続出来るように、理念を事業所入り口に掲示している。毎月1回のユニット会議で理念の読み上げを行い、共通理解の確認と実践に努めている。	法人の理念を基にその実践と共有を図るためユニット毎の具体的な目標を作り職員が普段のケアに活かせるよう努力している。管理者はユニット会議の中でその実践状況を確認しながら指導等行っている。職員は利用者の出来ることの把握に努め、「その人らしいあり方」を大切に思いに寄り添って生活の支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通りがかりの人や散歩の際には挨拶を交わし、お話をしたりしている。近隣の商店を利用したり地域のお祭りや行事等に参加し交流の機会を作っている。又、事業所での行事への参加のお誘い等も積極的に行っている。	町内会に加入し、夏祭りや公園の清掃等へ参加している。回覧板に広報誌を入れ事業所への理解を頂き、普段の挨拶や商店との付き合い、地域住民へ事業所の行事への参加を呼び掛けること等交流を大切にすることで、地域住民から様々な支援を頂けるようになっている。地域のボランティア訪問もあり、交流が拡大している。一昨年の目標達成計画に掲げた園児や小学生との交流拡大については、管理者は継続して取り組む意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回ホーム便りを作成し、回覧板を活用し、ホームの生活の様子や取り組みを理解してもらえるように取り組んでいる。又、職場体験学習の生徒の受け入れを行い、自治体への協力に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況や入居者、職員の状況等を報告している。又、自己評価や外部評価の結果を報告し、意見や要望等を取り入れて、サービスの向上に活かすように努めている。	町内会長、地区ごとの民生委員、包括職員、オブザーバー、家族等多数の委員を招いて2か月に1回開催されている。会議では、事故事例や研修、行事等の取組が報告され、個別ケアへの質問や、災害対策等への意見等が話されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、事業所の状況を市に繋げている。解らない事があれば、その都度担当者に相談し協力関係を築けるように努めている。	毎月介護相談員の訪問があり事業所と利用者の状況が報告されている。事業所の運営や利用者の個別の問題等は窓口と連絡を取り、問題解決に向け努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外へ出入り出来るようにしている。帰宅心で外に出て行くとする入居者には、見守りや付き添いを行っている。問題が起きた場合等は、報告書を全員で把握し、対策についての話し合いは早急に行っている。	委員会により研修と身体拘束に関する指針、マニュアル等を基に職員に周知している。職員も身体拘束の具体的な行為を正しく理解している。危険に繋がる行為を起こす利用者には、その原因や兆候を話し合い職員間で共有し、安易に否定せず寄り添い見守ることで鍵をかけない工夫や不適切な対応の無いよう努力している。また、事故報告等を基に対応を検討することで安全性を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者毎に支援方法を検討し、防止に努めている。けがなし委員会で話し合いをしたり、ユニット会議で検討し防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方もいるが、全職員が理解出来ていない。今後学ぶ機会を持ち、活用出来るようにしていく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し同意を得ている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね、一緒に考えて理解、納得を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との会話や態度から本人の思いを把握できるよう努めている。又、毎月介護相談員の来訪があり、外部者へ表せる機会を設けている。家族には面会来所時に近況報告を行い、家族の意見等を伺うようにしている。又、家族会を設けており、行事等で家族から意見を頂いている。	毎年の家族会総会で運営報告と共に意見交換の場を作り、意見や要望を伺っている。職員は面会時や毎月のお手紙による状況報告やバスレク等家族と共に行う行事でコミュニケーションを大切に信頼関係を築き、意見等を表しやすい関係の構築に努めている。介護相談員の訪問があり利用者が外部の者に直接意見を表す機会となっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所管理者会議、ユニット長会議、ユニット会議を開催し、事業所の状況や入居者、職員の状況報告を行っている。話し合われた意見等を聞き、活かすように努めている。日々の業務の中でも職員が意見を出しやすいように働きかけている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、職員の希望等を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、外部研修の機会を設けている。研修参加時の資料や報告書を回覧したり、ユニット会議で報告し、内容を共有できるようにしている。	一昨年の目標達成計画を基に現在も努力している。身体拘束や認知症等の研修が実施されている。また、経験の長い職員による指導等により働きながら学ぶ機会を大切にしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外の学習会や会議に参加し、意見交換を図る等、サービスの向上に繋げられるように努めている。人員に余裕がない為、積極的な参加は難しい。	グループホーム連絡協議会に加入し様々な情報を得るとともに、包括支援センターが主催する地域の事業所による連携等も大切にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と事前面談を行うことで、生活歴や心身の状況を確認し、ニーズの理解に努めることで信頼関係が築けるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に希望、要望を記入して頂いたり、事前面談時に同席して頂き、本人の状況とニーズを理解することで、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族より状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を行っている。又、必要に応じて自宅への一時帰宅や福祉用具の使用等の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が主体である事を忘れず、職員が入居者から教わる場面や頼る場面を作り、お互いに協働しながら和やかな生活が送れるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態や思いを細かく伝え、また、必要な物など家族の方に相談したりして、持って来て頂いたりしている。家族と共に考えながら本人を支えていくための協力関係が築けるように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に親族や知人の訪問を勧め、関係が継続出来る様に支援している。又、馴染みの美容室や商店の利用が出来る様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士が調整役となり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごす場面を作っている。状態によっては食席移動や配置変えをすることもある。食事準備は個々の能力を見極めて役割を決め、食事に向いて共同作業を行っている。又、他ユニットへ出向き交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方が訪問や電話を下さった場合は本人の様子を伺ったり、家族の相談にのるようにしている。又、入居者と職員や職員のみで移られた先の病院や施設に面会に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でも言葉や表情からそれぞれの思いや希望等を把握するように努めている。思いや希望を記録に残し、情報を職員が共有し毎月のユニット会議で個別ケアを検討し確認している。	職員は利用者との普段のかかわりの中から、要望や意向を引き出すことを大切にしている。会話の中や言葉では表しにくい利用者にも表情や仕草等を注視し、「気づき」を大切に、職員間で話し合い、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談で本人や家族から生活歴や生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等を聴き取りしている。又、会話の中からも情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを把握すると共に、表情や行動などからも本人全体把握するように努めている。本人の希望や出来る事、好み、能力を見極めて把握するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で感じた事、気付いた事、工夫を記録に残し、職員が情報を共有しユニット会議で意見交換を行っている。又、家族の面会時や電話で意向を聞き、意見を反映させるように努めている。	3ヶ月ごとモニタリングを行い計画を評価し3ヶ月を基本に見直しを行っている。事前に家族等の意見を伺い、カンファレンスで職員の意見を踏まえ現状に応じた計画の作成に努力している。その人らしくを一番に考慮し、出来ることや好きなことを大切に、暮らしを大切にしたい個別ケアに繋げている。計画は利用者の言葉を引用して作られている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意して食事量、排泄身体状況、日々の暮らしの様子、言葉、エピソードを記録している。職員の気づきや工夫も記載し、介護計画の見直しや評価に役立っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域生活を継続していく為に、周辺施設や商店、民生委員等の協力を得ながら支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関となっており、協力医の往診を受けている方もいる。状態変化があれば主治医や家族と相談し対応を行っている。受診結果は電話や文書で家族に報告している。	協力医療機関は毎月2回及び必要に応じての往診と看護職員の配置があり医療に対する安心に繋がっている。本人・家族が希望する医療機関も、事業所が支援し連携を築いている。診療結果は電話や文書にて報告されている。	
30		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
31		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が見舞いに行き状態確認を行ったり、家族や医療関係者と情報交換を行いながら、速やかに退院出来るよう支援している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関して指針を定め、家族から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、家族の意向や本人の思いを尊重し医療機関と連携を図りながら今後について検討するようにしている。対応困難な事や職員の不安等を家族に伝え、現状を理解してもらえよう努めている。	重度化への指針、看取りに関する指針を用いて早い段階から話し合うとともに、状況に応じて繰り返し話し合い方針の共有を図っている。同意書で意思確認が行われ、実際に看取りの経験も多い。協力医療機関や看護職員の配置等連携が整い、医師からの夜間の指示もあり、家族等の安心にも繋がっている。職員と家族とで見送った例も見られた。	
33		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。昨年、心肺蘇生法やAEDの講習会を受講し、緊急時の対応を備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、避難誘導の方法、経路の確認、消火器の取り扱い等の訓練を行っている。運営推進会議で町内会代表、民生委員の方々に消防訓練の実施状況を説明したり、お互い協力が得られるように話をしている。	一昨年の目標達成計画に従い、実際の避難や必要なものの準備がされている。2回の避難訓練では昼夜想定の実践であり、水害対策の訓練も予定されている。運営推進会議でハザードマップに関する説明も行われている。広域災害への備蓄等も用意されている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けを心掛けている。又、状況によっては見守りを行うこともある。	法人の理念に尊厳や権利順守を掲げ職員に周知徹底している。職員は人生の先輩であること意識し対応している。親しみのあまりなれなれしい言葉かけや対応にならないよう職員間で注意合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で能力に合わせて衣服や飲み物メニューを選ぶ等、自己決定する場面を作っている。又、会話の中から希望や思いを聞き出せるよう支援している。本人の希望に合わせて外出したり、買い物時は好みの物を購入して頂くよう働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や入浴などそれぞれのその時の気持ちを尊重して出来るだけ本人の希望に添った支援を行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めて頂き、必要に応じて職員が支援している。又、希望時には理美容室を利用したり、ホームに来て頂いたりし、散髪して頂いている。顔拭き、髭剃り、顔そり、爪切り等、ユニットの目標にあげている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、調理、盛り付け等をそれぞれの出来る事を見極めて共に行い、食事と同じテーブルで食べている。献立によっては本人の好みに合わせて味付けを変えたり、麺を御飯に変更し提供している。片付けは出来る範囲で各自が洗って、拭いて納めて頂いている。食事を一日の大切な活動の一つとしている。	食事は大切な活動の一つとして位置づけ三食事業所内で調理している。出来る利用者には調理の過程に参加していただき、職員と一緒に会話を楽しみながら家庭的な食事の支援を行っている。献立は利用者の希望を反映し、法人の管理栄養士より栄養のチェックを受け季節感を取り入れた食事を提供している。行事食や外食なども加え食事が楽しみなものになるよう支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事量を盛り付けし、毎食食事摂取量を記入し、情報が共有出来るようにしている。咀嚼状態に合わせて刻み食にしたり、飲み込みの悪い人にはとろみをつけたりして必要に応じて介助を行っている。定期的に管理栄養士にアドバイスを頂いている。			
41		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯洗浄の声掛けを行っている。出来ない方には介助支援を行っている。就寝前は義歯洗浄剤に浸し除菌洗浄を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンや時間で声掛けや誘導するなどし、出来るだけトイレで排泄が出来る様に支援している。又、個々に合った紙パンツやパットが使用できるように随時話し合い検討している。	排泄チェック表を基に適時の声掛け誘導によりトイレでの排泄に向け支援している。介護計画に位置付け評価を繰り返しながら職員間の意見を取り入れ自立に向けた支援を行っている。安全と自立に向けた支援を家族等に語り、なるべくトイレで排泄できるよう話し合いも行われている。		
43		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ以外にもお茶等を勧めて水分補給に努めている。水分摂取の少ない方はその方の好む物を提供している。散歩や家事動作等を通し、適度な運動の機会を設けている。又、便秘傾向の方は、状態に応じて下剤を調節し便秘予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望時間に合わせて入浴して頂いている。入浴拒否のある方にはタイミングや言葉掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。状態に合わせてシャワー車椅子を使用したり、安全に入浴出来るよう支援している。	利用者の意向を尊重しながら支援している。入浴を希望しない方にも、声掛けの工夫を行い、職員間で協力し清潔が確保できるよう支援している。皮膚トラブルのある方には、看護職員と協力し話し合い対応している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、ご自身のリズムで昼寝をされたり、傾眠されたりしている方や足の浮腫のある方などに臥床して頂くようにしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書をファイルに整理し確認している。薬準備、確認をダブルチェックで行っている。服薬時は日付、氏名を2人で確認してから与薬している。薬の変更等あれば申し送りや連絡ノート等でスタッフ全員に伝わるようにしている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し、畳み方、掃除等それぞれに合った出来る事をお願いし、その都度感謝の言葉を伝えるようにしている。趣味活動、散歩や音楽鑑賞等の楽しみ事が継続出来る様に支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて日常的に散歩や買物、外食やドライブ等に出掛けている。又、本人の希望により家族に協力依頼し、自宅への外出、外泊が出来るよう努めている。又、家族との外出の機会の一つとしてバスレクを企画し外食の機会を設けている。	年2回のバスレクでは家族との外出ができる。また、少人数でのドライブ等も支援され、気候の良い時期には様々な外出支援が見られる。買い物や散歩等日常的な外出や中庭でのお茶会等の気分転換のための外気浴も行われている。家族等の協力を得ながら外泊や墓参りなども実現できている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は所持して頂き、自己管理が出来ない方は事務所で管理している。支払可能な方は買い物時にユニットのお金で支払う機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や葉書、手紙の支援を行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を調整したり、温度、湿度を確認し調整している。利用者や行事に合わせた装飾品や花を飾る等、季節感を感じられるようにしている。なじみの物を置くなどして、落ち着いた雰囲気にも努めている。	温度や湿度が管理されているとともに、毎日の清掃で清潔感を保っている。食卓やソファ、畳と思いを安らげる空間がある。季節感を意識した飾りつけや利用者の創作物、思い出の写真等が掲示されている。一階のユニット間にはウッドデッキがあり外気浴等ができ居心地よく過ごせる空間となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を置いたり、廊下やリビングにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、他入所者とゆったりと過ごせるようにしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具、電化製品、馴染みの品等を持ち込んで頂き、安心して居心地良く過ごせる様に努めている。又、居室でゆっくり趣味の継続が出来るよう配慮している。	居室はそれぞれの馴染みのものを持ち込みがあり、室内はそれぞれのこだわりが大切にされ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流し台の高さは入居者が作業を行いやすいように作られている。浴槽も跨ぎやすいように埋め込み式になっている。トイレは車椅子の方も使用しやすいように引き戸の広いトイレも設けている。要所に手摺を設置し、安全確保と自立支援に配慮している。			